

やすだ のぼる
安田 登
 能楽師（下掛宝生流：ワキ方）
 寺子屋 講師 （阿弥陀寺）
 こどもおばけ合宿 講師 //

主著に『論語』『あわいの時代』『あわいの時代の『論語』ヒューマン2.0』
 『能 650年続いた仕掛けとは』他多数。

こままたとき 親鸞聖人の 鳥



イラスト 中川 学

「七宝講堂道場樹 方便化身の浄土なり」

さか国の経済が崩壊する
 なんて思ってもいなかっ
 たので、足元がすぐわれ
 た気持ちです。

どうもこのごろ、日
 本が穏やかではない。
 市街地で、意味なく
 人を殺傷したり、大勢
 の人をわざと車ではね
 たり…。民心の荒廃は
 筆舌に尽くせません。
 しかし、なんといいつ
 ても驚くべき
 は、公的年金
 が崩壊しそ
 うだという
 ニュースです。
 老後の安心の
 ために国に積
 み立ててきた
 年金をもらえ
 なくなるかも
 しないとい
 うのです。
 これはびつ
 くりです。ま
 さか国の経済が崩壊する
 なんて思ってもいなかっ
 たので、足元がすぐわれ
 た気持ちです。

金融庁が、夫婦の老後
 資金としては公的年金以
 外に「三十年で二千万円
 が必要」だという報告書
 を出しました。定年まで
 に二千万円、貯めるとい
 うのです。

ところが老後にかかる
 金額の試算はこれだけで
 はありませんでした。金
 融庁が独自にした試算で
 は、最大で「三千万円必
 要」と出ていたのです。
 三千万円なんて、さらに
 無理です。いまの若い人
 が年金をもらう年齢にな
 れば、さらなる崩壊が進
 み、もつと多くの金額が
 必要になるかもしれませ
 ん。

多くの人には実感がな
 いかもしれませんが、実
 は日本はお金持ちが多い
 国なのです。日本の富裕
 層の数は世界第三位です。
 その格差は年々広がって
 います。

特に若い人の貧困率は
 増えています。若い人で
 年金をもらえるまでに三
 千万円以上の貯蓄ができ
 る人なんてほとんどいま

せん。いまの若い人に
 とつての「安心が老後」
 なんていうものは夢のま
 た夢なのです。
 それに若い人が気づい
 たら、「もう年金なんか
 払うのやめた」という人
 が急増するかもしれませ
 ん。実際、「年金払え」、
 「年金返せ」というデモが
 起き始めています。若い
 人が年金を払わなくなる
 と、年金の崩壊は早まり
 いま年金をもらっている
 人にも支給されなくなる
 可能性だってなくはない
 のです。

人生百年時代

おそらく、政府だつて
 びつくりしているでしょ
 う。

年金の政策だけでなく、
 これまでのいろいろな政
 策は、平均寿命を元に考
 えられてきました。私た
 ちだつてそうですよね。
 「平均寿命はこのくらい
 だから、あとのどのくらい
 元気かな」などと考えま
 す。

ところがこのごろ「人

生百年時代」といわれる
 ようになっていきます。急
 速な医学の進歩によって、
 先進国では二〇〇七年生
 まれの二人に一人が百歳
 を超えて生きるといわれ
 ているのです。

この人生百年時代を踏
 まえて麻生大臣が慌てて
 金融庁に試算を命じまし
 た。その結果、出てきた
 のが、二千万円が足らな
 くなるかもしれないとい
 う結果だったのです。し
 かし、麻生大臣は「これ
 は政府の政策スタンスと
 異なる」として報告書を
 受け取らないことにしま
 した。政府のスタンスは
 「公的年金で老後生活を
 ある程度まかなえるとす
 る」というものです。だ
 から、受け取らない。受
 け取らないということは、
 報告書は存在しないこと
 になる、これもよくわ
 かりませぬ。

報告書がどうこうはと
 もかく、国にはがんばっ
 てもらわなくてははいけま
 せん。

しかし、なんともなら
 ない可能性もある。でも、

二千万円、三千万円の貯
 蓄なんて無理。「お上は
 国民に首でもくくれとい
 うのか」、なんて怒る人
 もいます。

怒ることは大切です。
 みんなが物分かりがよく
 なり、怒らなくなったら
 「ああ、国民に対しては
 何をしてもいいんだな」
 と思われてしまいます。
 怒ることは大切なのです。
 しかし、怒りながら、も
 しどうにもならなかつた
 ときのことも考えておく
 ことも大切なのです。

さて、そこで親鸞聖人
 のお言葉です。今回、ご
 紹介するのは次のご和讃
 です。

七宝の講堂

七宝講堂道場樹
 方便化身の浄土なり
 十方来生きはもなし
 講堂道場礼すべし

七宝、すなわち金、銀、
 瑠璃、玻璃（水晶）、しゃ
 こ（貝）、珊瑚、瑪瑙
 という七つの宝によって
 作られた荘厳な道場。そ
 して、お釈迦さまが悟り

を開かれたという菩提樹(道場樹)。そんな素敵な場所でお弥陀様はお説法をされます。

しかし、この浄土は人々の心や願いに応じて仮りに出現させられた浄土なのです。これは、すべての人々を真実報土へ往生させようとされる阿弥陀仏の方便です。私たちはそれを知り、さらに敬い尊ぶべきである、というご和讃です。

「七宝講堂」だけではありません。

私たちは荘厳な建物や、素敵な衣服にあこがれます。おいしい食べ物や豊かな生活にもあこがれます。でも、それらはすべて「方便」であり、真実の豊かさではないのです。むかし、日本がもつと貧しかった時代。「その頃の方が、いまよりも楽しく、心豊かに生きていた」という人はたくさんいます。その頃のことを考えれば、二千万円、三千万円の貯蓄がなくても、心豊かに、楽しく生きることはできるのでしょ

うか。

「貧乏なら貧乏でいい」。そう開き直る。なぜならこの世のあらゆることは方便なのだから。貧乏を樂しむという心構えをもつて、どんなところでも阿弥陀様のお説法をなさる「七宝講堂」に変えてしまおう。あらゆるところを、花咲き、鳥が鳴く極樂にすることができるとのこと。

そこで、今回お勧めしたいのが、貧乏そのものを樂しむ「優雅な貧乏生活」です。貧乏を恥ずかしいことではなく、むしろ「俺は貧乏だ、でも優雅だぜ」と胸を張って主張する、そんな生き方です。

お手本は俳諧師

「優雅な貧乏生活」のお手本は、江戸時代の俳諧師です。江戸時代の俳諧師で有名なのは松尾芭蕉です。松尾芭蕉は、俳諧そのものよりも、その生き方、「俳諧的生き方」が大切だといっています。「俳諧」という語の、

「俳」も「諧」も、もともとがユーモアという意味です。「俳」がふたりの間のユーモア(ボケとツツコミ)、「諧」がみんなでわいわいとするユーモアです。

ですから、俳諧的な生き方というのは、この世の中を諧謔(ユーモア)で読み直してしまおう、生き直してしまおうという生き方です。

私たちも、江戸時代の俳諧師たちのように、貧乏を逆手にとつて、それにちよつとしたユーモアを加えて世の中を優雅に笑つて生きてしまえば、二千万円、三千万円の貯蓄なんて必要ない。そして、そんな生き方をしようというのが「優雅な貧乏生活」なのです。

優雅な貧乏の野点

「優雅な貧乏生活」で大らかなことは「優雅さ」です。優雅な貧乏生活のためにはいろいろありますが、今回はひとつだけ紹介しましょう。

お金がなくても、たまには喫茶店でコーヒークらい飲みたいものです。しかし、安いコーヒーマシンでも二百円以上かかる。毎日これをするとう月に六千円ほど、年間で七万三千円もかかります。貧乏生活にはこれはきついです。

そこで「優雅な貧乏生活」です。

「優雅な貧乏生活」仲間を集めます。3人〜5人くらいがいいでしょう。みんなで百円ショップに行つて、抹茶用の茶碗を買います。これは半永久的に使うことができます。茶碗もひとつ買つておきましょう。

次は、みんなでお金を出し合つて「お抹茶」を買います。たとえばインターネットの通販サイトを見ると百グラムの「お稽古用抹茶」で八一九円(送料込)というのがあります。お茶を点てる時に使う抹茶の量は約一五グラム。百グラム買えば六十六人分あります。ひとり分、十三円弱です。

これでお茶会をするのです。誰かの家に集まつてもいいし、野外でする野点もいいでしょう。茶室はだいたい狭いものです。だから家は狭い方がいい。

野外でする野点の場所探しも楽しい。木陰を探し、雨が降つていたら公園の四阿などもいいですね。ふだんから、野点に使える公園を見つけておくといいです。

また、みんなで野の花を摘みに行きます。適当な花器を見繕い(たとえは細い管とか)、それに摘んできたお花を美しく活けます。

お花を活けたら、作法にのつとつてちゃんとお茶を点てます。この「作法にのつとつて」というところが「優雅な貧乏生活」では大切なことです。むろん流派にこだわる必要はないし、自己流が入つてもいいでしょう。そして、お菓子をいただき、お茶をいただき、さらに

はみんなで俳句や短歌でも作ります。



おしらせ

このためにはお抹茶の点て方の基本や、俳句や短歌の作り方を知つておいた方が、より優雅になります。その方法は図書館の本で学ぶことができます。無料です。

おばけ合宿 in 阿弥陀寺 2019

8月16日(金)〜18日(日)

- 講師 安田登師 (能楽師)
- 榎宅聡師 (能楽師)
- 東雅夫師 (文芸評論家)

秋彼岸会法要

9月22日(日)

- 法話 (100分名著講師)
- 安田登師 (能楽師)
- 塩高和之師 (琵琶奏者)